

# 子どもの森づくり通信

発行: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P 子どもの森づくり運動 参加園月例会報 (2021年12月号)

〒146-0082 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081 http://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

「JP子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、 活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



【年末のごあいさつ】

今年も新型コロナウィルスが猛威を振るう中、

保育に従事される方々は大変なご苦労をされたことと存じます。

そんな中でも子森ネットの活動にご支援、ご協力をいただき大変ありがとうございました。 来年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

子森ネット 代表理事 塚原 茂

#### (目次)

- 1. 「園庭緑化運動」園庭に植える木を選ぶ活動レポート
- 2. 「東北復興グリーンウェイブ2021」東北から届いたどんぐりを植える活動レポート
- 3. 「全国集会&研修会2022」参加者募集のご案内
- 4. リレーエッセイ(2021年12月号)

#### ■「J P子どもの森づくり運動 Iとは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。 しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来 の生きる力を育みます。「JP子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)が「日本郵政グ ループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

#### ■「JP子どもの森づくり運動」運営体制

・運 営: NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)

・特別協賛 : 日本郵政グループ

・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育連盟 NPO法人 富良野自然塾

(公社) 大谷保育協会 (公社) こども環境学会

保育環境研究所ギビングツリー 国際校庭園庭連合日本支部

(公社) 国土緑化推進機構 (一社) 日本森林インストラクター協会



# 1. 「園庭緑化運動」園庭に植える木を選ぶ活動レポート

園庭を多様な体験フィールドとして緑化していくことを目指す「園庭緑化運動」のモデル活動園である「三茶こだま保育園」(東京都)が、園庭に植えるシンボルツリーを選定する活動が行われました。園庭に植える木を選ぶ活動はとても重要です。選定作業の一部ですが、これから園庭の緑化を検討されている参加園に情報提供したいと思います。以下、レポートは、今年度末に発行予定の、これまでの園庭緑化運動をとりまとめた冊子の編集をご担当いただいている岩井光子さんです。

「園庭緑化運動」モデル園の一つ、東京都世田谷区の 三茶こだま保育園が11月29日、園庭に植栽予定のシンボル ツリーの下見に出かけました。

いつも3園の研修講師をしてくださっている田園調布学園大 准教授で、国際校庭園庭日本支部代表の仙田考先生も一 緒です。木を選ぶ作業を専門用語で「材料検査」と呼びます。



園内にはたくさん木があって目移りしてしまいます



樹高もちょうど良さそうなヤマボウシ

一行は朝早くに埼玉県児玉郡上里の藤造園に到着しました。午前中の早い時間が良いのは、「朝の光の中で見る木が 一番生き生きしていて状態が良いから」(仙田先生)だそう です。

冬の木は葉が落ちてしまうので、判別が難しいところもあるのですが、「赤い実、これはマユミですねえ」、さすが樹木専門の仙田先生はお詳しく、ちらっと見ただけで名前からその性質まで、どんどん解説してくださいます。

シンボルツリーの樹高は園舎の存在感に負けない程度で、 4m前後を想定しています。さらに季節感のある落葉樹で、かわいい花が咲いて、実もなって、としぼっていくと、ヤマボウシやハナミズキ辺りが良さそうです。

石田亜由美園長先生の第一希望はヤマボウシ。「花もすごくかわいいんです。 実もマンゴーみたいな味がするんですよ。 果実酒にもできる」 石田先生は園庭の植栽予定地の写真と木を何度も見比べながら、 植えた後をイメージしていました。

木には「表(おもて)」があって、「そこを正面に植えることになります」と仙田先生。アドバイスに従い、良いなと思った木は「表」側に回って樹形がイメージに沿うか、よく眺めます。どこから見るかで木の印象はずいぶん変わるものです。



ヤマボウシのかわいい実を発見!

この日はもう一軒、深谷市の埼玉県花植木流通センターにも続けて立ち寄りました。

到着までの道沿いに樹木の圃場をたくさん見かけました。地域一帯が花木生産で有名な場所だそうです。先に見つけた藤造園のヤマボウシと候補を2本にしぼり込み、どちらかにすることに決まりました。

工事は来年1月中旬辺りを予定。子どもたちは工事の見学が大好き。「(植栽工事を)子どもたちに見せたい気持ちもありますね」と石田先生。みんなで念願のシンボルツリーをどう迎えるか、ちょっとした企画も考え始めているそうです。

(「園庭緑化冊子 |編集担当·岩井光子)

# 2. 「東北復興グリーンウェイブ2021」東北から届いたどんぐりを植える活動レポート

\*活動園:福岡県「若久青い鳥保育園」\*日時:2021年11月22日(月) \*活動場所:自園以下、同園の川上農園長さんからのレポートです。

「久々の雨から冷え込んで参りましたが今日も元気な農園長は若久青い鳥保育園に登園です。

今日はJP子どもの森づくり運動のイベントです。東北復興グリーンウェイブで、東北のお友達が拾った東北のどんぐりを、園舎にて植え付けました。植え付けたどんぐりは園児達で大事に育て、2023年に東北へ戻します\*(^o^)/\*」









# 3. 「全国集会&研修会2022」参加者募集のご案内

毎年恒例の J P 子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2022」福井大会のご案内です。今回は、**幼児(少)期の環境学習(教育)、園庭緑化(自然化)、保育防災**について考えます。それぞれ、保育にとって大切なテーマです。感染症対応のため、会場参加者数が制限されています。募集者数が残り少なくなってまいりました。早めのお申し込みをおススメします。

## 【開催概要】

- 1. 日 時:2022年2月14日(月)13:00~17:30 2月15日(火)10:00~14:30
- 2.会場:「福井市地域交流プラザ(アオッサ)」研修室601B、C(JR福井駅東口から徒歩1分)
- 3. 募集人数:★会場参加者(30名)★オンライン参加者(50名)\*定員になり次第締切ります。(先着順)
  - \* 感染症対応のため、会場参加とオンライン参加併用の募集とします。
- 4. 講 師
  - \*基調講演:環境教育としての自然体験~こどもの自然体験の重要性~
    - 北海道教育大学 教育学部 岩見沢校アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩氏
  - \* 園庭緑化運動総括:田園調布学園大学大学院 人間学研究科 子ども人間学 専攻 准教授 仙田 考氏
  - \*保育防災講座:消防庁アドバイザー・株式会社タフ・ジャパン 代表取締役 鎌田 修広氏
- 5. 応募方法:同封の申し込み用紙にてお申込み下さい。

ホームページからおも申込みいただけます。 ⇒https://kodomono-mori.net/archives/9766 (申し込み用紙は、既にお申込みいただいた参加園にもお送りしております。ご了承願います。)

その他、詳細はホームページをご参照下さい。

## 4. リレーエッセイ(2021年12月号)

今月号のリレーエッセイは、全国保育士会副会長/認定こども園あけばの愛育保育園の北野久美園長先生の最終回です。 子どもたちのより良き未来を願い、保障することを命題とする保育者だからこそ、ESDやSDG s を"自分事"としてとらえねばならない という、最終回にふさわしい心に染みる原稿をお送りいただきました。北野先生、ありがとうございました。

(S) それなら (D) できる (Gs) ゴールだね

全国保育士会 副会長 認定こども園あけぼの愛育保育園 園長 北野久美



2015年国連総会での「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された、2016年から2030年までの国際目標であるSDGs~5年前から持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットは示されてきました。この一年はコロナ、オリンピック等世界的規模の重要な課題があったためか、あちこちでこのカラフルなアイコンのバッジをつけている人、マークの掲示が目立つようになってきました。

私の住む北九州市はそもそも公害を克服した街「環境首都」としてESDの積極的に取り組んできた経緯があります。私自身もESD協議会のメンバーでもあります。2018年には「SDG s 未来都市」に選ばれています。SDGsが「目標」であるなら、ESDはそのための「人材育成」とも言えます。

しかし、こういった国の施策であったり、世界的な課題だったりすると、内容がとかく難しい話になりがちで、具体的には?と問われると、ためらってしまうことが多いのが現状です。本当は一番生活に根づいていないといけないはずなのに~です。未来からの預かりものである子どもたちの保育を生業としているわたしたちは、その未



来を保証することが命題だから、持続可能(Sustainnable)でなければいけないのですもの。



そこで私はESDも読み替えていました。

**(E) いいよ! (S) そうだよ! (D) 大丈夫!**。何が持続可能な教育になるのかを検討するときに、"それもあり!""そうそう!"と、具体的な取り組みを出し合うことが大事だと考えたからです。

SDG s も同様で、1 7のゴールを子どもたちの生活や保育、園の取り組みに当てはめてみると、できること、やれること、やりたいことが、見えてきます。今年の生活発表会では年長児が自分たちや園でやっていることを17に当てはめてみましたが、それならやっているよね、できるよね、みんなのゴールだねと"自分事"としてとらえることができました。

SDGSについて賛否はあれど、私の中では保育に当てはめての整理をしつつ9年後の、2030年の景色を、意識の変容を見てみたいと思います。保護者に対しても「あけぼの愛育保育園SDGS行動目標」を掲示していますが、これも折に触れブラッシュアップしながら自分事としてのとらえができるようにと取り組んでいます。それなら、できる、ゴールだね!

(\*写真:年長にじ組さんによる「生活発表会」~私たちのSDGS~)



## ★information: 北九州市保育士会 YouTube

下記アドレスにて、北野先生が会長を務めておられる「北九州市保育士会」の活動がご紹介されています。

⇒ https://www.youtube.com/channel/UChnk9anR2i5yheiBrDQ05Bg